

KAETSU on the MOVE

実学を120年。「経営 経済」のKAETSU

 嘉悦大学

発行：嘉悦大学アドミッションセンター

はじめて本紙を読む方へ

嘉悦大学は日本初の女子商業教育を実践した嘉悦孝によって創立され、女子短期大学を経て、2001年以降は男女共学の4年制大学として新たな道を歩んでいます。これまで120年超に渡り時代に先駆けた実学教育を展開し、日本初の女性公認会計士をはじめとする有為の人材を

多数輩出してきました。そして今、「実学120年の嘉悦で信頼できる職業人になる」をスローガンに、学生へのキャリア支援をはじめ、教育・研究活動におけるさまざまな挑戦を続けています。本紙ではその最前線をレポートします。

2024

7

Interview
and more

業界に特化した
就職までの
プログラム



120年の伝統で培った「実学」に特化したキャリア教育で、高い就職実績を誇る嘉悦大学。自分が本当に学びたい学問はどこなのか。さらに進みたい職種はどこなのか。高校時代に学部選び＝将来像といった難しい選択を迫らずに、社会人としての土台となる基礎学問「経営学・経済学」をまず1年次に学ぶ。そのうえで徐々に自分のより深化したい専門領域、その先の希望職種を見出してもらうのが本学の方針であり、【良さ】です。

後悔なく学生の成長過程（関心領域の明確化）に即して2年次からはビジネス系専門学校に相当する4つの緩やかな専門コースに進み、3年次以降では業界別に特化した実践力を8つのチャレンジプログラム（CP）で身につけ、高い就職率に繋げています。CPのひとつを担当する酒井教授がその内容と魅力を語ります。



酒井 翔子

経営経済学部 教授

博士(経済学)。研究分野は人文・社会／社会学／租税法 税務会計。嘉悦大学では商業簿記、ファイナンシャルプラン、基礎ゼミナール、研究会、フードビジネスチャレンジプログラムなどを担当。学生時代にはスポーツに親しむ。大学2年生の時に訪れて以来、イギリスの美しい景色、言語、建物、文化に魅せられ、イギリス税法を専門とする今の職へ。研究会やチャレンジプログラムでは、ゼミ生の「気づき」に寄り添えるように個々に向き合う努力をしている。

カフェ・フード業界特化の チャレンジプログラム

私が担当するCPでは、カフェ・フード業界を中心に業態開発・集客戦略の提案や実店舗での覆面調査等を通じてフードビジネスを学んでいます。

学園祭の模擬店出店では、連携企業である株式会社プロントコーポレーション様にご協力頂き、PRONTO 嘉悦大学店という名称で、実際の店舗の経営体験を行っています。PRONTO の取締役である鈴木様を講師でお招きして、今の飲食業界の実情などを話して頂き、その上で、その年の模擬店舗のコンセプトを1から作り上げています。

店長や副店長をはじめ、商品企画や広報宣伝、会計部門すべてを学生が分担して行い、実際の経営に向けて準備を進めます。コンセプトをしっかりと共有できていないと全く違うことをやり始めてしまう事態にもなりかねないので、各々のコミュニケーション力が求められるこの模擬店を通じて、1つの経営組織が同じ目標へ向けて事業遂行する難しさを実体験として学んでいます。

他にも、実際にPRONTO様の店舗で勤務する店舗研修という活動も行っています。店舗研修を希望する学生の所見をPRONTOに共有しているため、普段の活動状況や性格、飲食業界の経験有無など、学生それぞれの現状を把握頂いた上での店舗配置をして頂いています。

研修中も頻繁にPRONTO様と情報交換できるので、どんな成長があるのかだったり、うまくいかなかったことを教員側からもフォローができるなど、大学側とPRONTO側の双方向から学生1人1人を見てあげられるのが魅力だと思います。

カフェ・フード業界CPは毎年50名程度が在籍しています。そういった環境下で指導する時に大切にしているのは、学生1人1人が主役だということです。大人数なので時に学生間の衝突もあるのですが、基本、人は自分と違うという考えをもっているのだから自分の個を大切にしながら相手も尊重して欲しいという方針で指導しています。

活動の結果が成功であろうと失敗であろうと、その活動の中で、自分がどういう役割を果たせたのか、相手とどのような関係性をもって行動すれば上手くいくのか、などを学んで欲しいです。その結果、学生はこのCPを通じてプロジェクトの全体像を見ることができるようになっていきます。どうすれば相手が喜ぶのか、助けになるのか。それが分かるようになって、組織で最善の行動ができるようになる。すると、自分の良さにも改めて気づくことになる。ただ、その良さを見つけてそのままにするのではなく、CPの中で切磋琢磨して自分を磨いていくことまでをチャレンジしてもらっています。

教員としてアドバイスもしますが、それが絶対的な正解ではないので、自分が必要だなと思う部分を取捨選択(カスタマイズ)しながら、自分なりに吸収してもらえたら良

いというスタンスで、私自身も一緒に学生と学ぶことを大事にしています。だから、個を大事にするというのが、このCPの最大のポイントだと思います。とにかく自由にのびのびだからこそ、主体的・自主的に学生みんながつくり上げるCPが出来上がっていると思います。

このようにCPは、様々な業界に特化して、個を伸ばしながら専門性を磨いていくプログラムと言えます。企業と連携した活動を行う。何だか難しい様に感じてしまうかも知れませんが、実際に経験したからこそ見えてくる、活動したからこそわかる学びがあると思います。

学生時代の経験は、人生の様々な場面で役立つ強みとなり、皆さんの財産になるものです。先輩学生達が繋いで来てくれた良き学びの環境を活かして、嘉悦大学のCPで沢山の事に挑戦してみてください。

チャレンジプログラムを 就職・キャリアにつなげた学生の声

普段使っている飲食店など身近にあるものを分析すると聞いて、興味が湧いたことや活動が楽しそうだなと思ったのでカフェ・フード業界に特化したCPを選びました。

活動の多くがグループワークで、ワーク後は必ず発表があるので、プレゼン力が身についたと思います。模擬店の活動では、2年生の時の活動がコロナ禍の影響もあり、不完全燃焼だったので、「もうちょっとしっかりと形のをやりたい」という想いがあった、3年生の時の模擬店では、商品を充実させようといういろいろな提案をして店舗の動かし方が学べました。



新潟県立柏崎高等学校出身
経営経済学部4年生
田崎 心

プレゼン力が身についた



東京都立江戸川高等学校出身
経営経済学部4年生
萩原 悠貴

主体性を磨き、内定へ

もともと飲食やフードに関して興味があったのと、ついでに会計系の資格も取りたいと思ったので、会計学も教えている酒井先生のいるこのCPを選びました。

良かったところは、学生主体で何事にも取り組むので、自分たちで考えたことを実際にゼミで実践できることです。自分たちのやりたいことや考えを出してできるっていう点で、主体性はすごく磨かれたと思います。PRONTO様で店舗研修をさせて頂いたことで、実際に働いてみて社内の人のもとも知ることができ、就活でPRONTOを受けて内定をいただきました。

文責：学生広報部 小平 奏(経営経済学部4年生)

8 業界に 特化した つの CP チャレンジ プログラム

フードサービス CP

カフェチェーンでのフィールドワークも行いながら、飲食事業に必要な会計・税務知識を学びます

ICT ビジネス CP

プログラミングやデータ解析、Webデザインの基礎から、企業DXへの応用までを学びます

エンタメ CP

デジタルエンターテインメントやテーマパークの研究と実践を通じてビジネスの理解を深めます

ツーリズム業界 CP

ホテル・空港など、ツーリズム産業を題材にホスピタリティやオペレーション実務を研究します

起業・事業承継 CP

起業家教員から、実際の起業体験を通じて、事業成長モデルとその実践について学びます

会計士・税理士 CP

在学中の公認会計士試験(短答式)合格や、早期卒業制度を利用した税理士資格取得を目指します

地域創生 CP

地方自治体や地域企業と連携し、国内各地域の課題解決の理論と実践を学びます

公務員 CP

地方公務員・警察官採用試験合格を目標に、社会人基礎力と応用力を磨き上げます



嘉悦大学 学長 森本 孝

本学の大きな魅力は、ビジネスの現場で学ぶ実践プログラムが充実していること。目標業界／資格別に用意された8つのチャレンジプログラムで、大学で学んだ経営・経済理論や実務能力をビジネスで活かすための真の実践力が身につきます。

ICTビジネス CP

辰巳奈央

経営経済学部 准教授

企業からの依頼や指導を元に、調査やヒアリング、製作・作成や納入といった全工程を経験します。急な変更にも臨機応変に対応するためタイムマネジメント能力が鍛えられます。



会計士・税理士 CP

飯野幸江

経営経済学部 教授

資格取得に王道なし。地道な学習をコツコツと積み上げていく「持続力」が求められます。そこで培った「諦めない力」は、人生のどんな困難や壁でも乗り越えられる宝物です。



エンタメ CP

内海健宏

経営経済学部 教授

eスポーツなど若者に人気のエンターテインメントを用いて高齢者や障がい者の生活を豊かにするプロジェクトを企画・実践しています。自分の好きな事でビジネスや社会課題の解決に取り組みます。



地域創生 CP

岩月基洋

経営経済学部 准教授

実際に地域を訪れて五感で感じる土地の匂いや一次情報にはさまざまな「問い」や「気づき」が隠れています。問いから生まれる共感や違和感こそが地方創生のシーズとなります。



ツーリズム業界 CP

真鍋雅史

経営経済学部 教授

ホスピタリティの大事な要素が「国際コミュニケーション力」です。これは単なる語学力ではなく、目の前のお客様に寄り添って、一緒に困りごとを解決していく対応力です。



公務員 CP

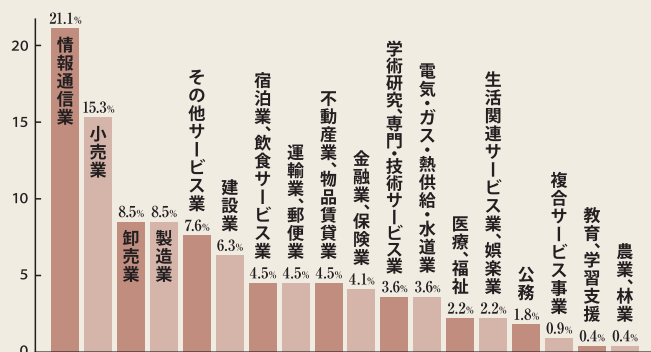
石川光晴

経営経済学部 教授

「全体の奉仕者」という言葉があるように公務員は全市民、全国民に対して中立で公平でなければなりません。狭い考えに固執することなく常に視野を広く保ち世の中を俯瞰してください。



経営経済学部の強みを活かし、幅広い業界に就職が決定 業界別就職先データ (2024年3月卒業生実績)



就職率

2024年3月卒業生実績

95.7%

就職者数223人／就職希望者数233人(2024年3月19日現在)

求人票

2024年3月卒業生

32,623件

「就職に強いKAETSU」といわれる歴史と実績が信用となり、実業界から毎年求人が集まります。

主な就職先(抜粋)

東邦銀行、あおぞら銀行、東京信用金庫、トヨタS&D西東京、ヤナセ、エン・ジャパン、dip、東急セキュリティ、佐川急便、西日本旅客鉄道(JR西日本)、ANA沖縄空港、東芝テック、ホーチキ、富士ソフト、シーイーシー、システナ、リブセンス、青山商事、サンワサプライ、ハウスメイトグループ、フロントコーポレーション、リンガーハット、イオンリテール、東京都・特別区、青梅市役所、常総広域消防、陸上自衛隊 ほか